

(議長)

次に飯田議員の発言を許可いたします。

「飯田議員」

はい。

(議長)

「飯田議員」

「飯田議員」

おはようございます。私は第2回定例会にあたりまして、3問5項目に渡りまして質問をさせていただきます。

第1問目でございます。高齢ドライバーの運転免許証の返納対策についてであります。連日、マスコミ等で報道されておりますように、高齢ドライバーによる交通事故が大変多く発生しているようでございます。その原因は、ブレーキとアクセルの踏み間違いと申しますか、そういうような誤作動によるものが大半を占めているわけでございます。国の方もこういうような現状を受けまして、安全装置の開発や装着を目指したり、また、関係法令の整備に、進めているわけでございます。中には大変こう、悲惨な事故も発生しております、社会問題と化しているわけでございます。当町におきまして、このような事案や、また、運転免許証返納の実態をまず1点伺います。

次は、公共交通機関が少ない、この地方の町にありましては、運転免許証を返納された方に対する、代替え交通機関の確保やサポート体制が緊急の課題として急がれるわけでございます。例えば、隣の知内町では、デマンドバスを導入したり、また、最近の報道でも、鹿部町では国の半額補助を頂きながら、町内を循環するコミュニティーバスの実証運行を実施をした、そういうような報道もあるわけでございます。堰を切ったように全国の自治体がこの対策に取り組んでいるわけでありまして、当町においてもこの対策が急がれるわけでございます。町長の所見を伺いたいと思います。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

飯田議員から、高齢者運転免許証の返納者対策について、2点に渡ってのご質問であります。

初めに高齢ドライバーによる事故が、全国で相次いでいることを踏まえ、本町における事案や運転免許証の自主返納に関する実態についてのご質問であります、江差町内にお

ける65歳以上の高齢ドライバーによる事故の事案は、平成29年度は34件、平成30年度が30件となっており、全体の事故件数からの割合にいたしますと、平成29年度で19.8パーセント、平成30年度で21.1パーセントとなっております。また、運転免許証の自主返納についてであります。平成29年度では、江差警察署管内において、31名の方が、返納されており、この内、江差町民は9名、平成30年度では29名、この内、江差町民が7名となっております。なお、本年4月から5月までの2か月間において、既に4名の町民の方が返納されている状況にあります。

次にこれら運転免許証を自主返納された方々への支援策についてのご質問ですが、議員ご承知のとおり、現在町の交通福祉施策として、65歳以上の方を対象とした、江差町高齢者等交通費助成事業や、江差町障害者等福祉タクシー利用助成事業、更には介護保険事業における移送サービス等を実施しているところであり、この中で、障害者福祉タクシー利用助成事業については、昨年度運用を拡大させ、これまでの通院限定から外出全般に適用させ、障害のある方の外出をする機会の確保等を図ったところであり、また、移動に制約がある方等を対象に、民間事業者が自家用有償旅客運送を実施しており、江差町地域公共交通会議にて登録や変更等の協議を行っております。町といたしましては、免許返納者に対するサポートというよりは、今後の超高齢化社会への対応等、地域の公共交通を取り巻く環境が大きく変化していることから、その手段も含め、第6次江差町総合計画の策定段階において、全体的な議論を深めて参りたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

「飯田議員」。

「飯田議員」

再質問でございます。ただ今、免許証の返納者の数、報告、答弁頂きましたが、数的には本当に一桁で少ないというふうに考えております。ただですね、実態は家族を含めて、本当は本人も運転に不安があると、できれば返納したいと、そういう家庭が多いわけがありますよ。けどやっぱり、買い物だ、通院だ、やっぱり車が無ければどうもこの町では生活できないというのが、やはり実態なんです。そういう、現在でも江差町に制度があるわけですから、これをやっぱり知らない家庭も多いです。やっぱり、きちっとやっぱりそれは、広報、やっぱりピーアールすべきだと思うんです。現状でもこういうような制度がありますよ。ただ私はやっぱり今の制度だけでは、やっぱり免許証の返納者の、返納には繋がらないというふうに考えております。

それと合わせましてですね、ただ今町長は総合的には第6次総合計画の中で、交通対策を検討していきたいというふうな答弁がありましたけれども、この第6次総合計画においては、今後のスケジュールはどういうふうな年次計画になっていくのか、この2点再質問

させていただきます。

(議長)

はい。「まちづくり推進課長」

「まちづくり推進課長」

飯田議員からのご質問でございますが、まず、現在の制度の周知をしっかりとすべきだというご質問でございます。町の広報の中で、福祉タクシーとか高齢者の半額助成などの周知は行ってきております。

それと、第6次の総合計画の今後のスケジュールですが、6月の下旬に第1回目の策定審議会を、今開催する予定でございます。で、4回程度、議論を重ねまして、本年の12月にはある程度の素案を出していきたいと。で、12月、1月以降にパブコメを頂きまして、3月に議会に議決を頂くというようなスケジュールですが、その間に10月、11月に2回ほど、議会の皆さんとも、この総合計画に関してキャッチボールをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(議長)

はい。「飯田議員」

「飯田議員」

それでは第2問目に入りたいと思います。

江差高校の間口削減と今後、江差町としての対応や諸課題の解決に向けてについてであります。今年、江差高校受験、そして入学希望者がありましたけれども、大きく減少した経過、1年生は2クラス、2間口となったわけでございます。特に内容をみますと、江差からの入学者が大幅に減った。こういう実態もあるわけであります。私もいろいろ中学校含めて、要因を調べましたけれども、特にスポーツ関係の、そういう部分も含めた進学者がかなり出たと。そういうような現象もあるわけでございます。それらを含めまして、今後、江差町教育委員会として、今後の見通しや3間口確保に向けた対策を伺いたいと思います。

それから2点目でありますけれども、道教委の公立高校統廃合の指針によりますと、生徒数の、ただ単に生徒数の減少だけを見て、間口を削減するのではなく、これからの需要をみましてもですね、例えば、地元からの進学率や生徒募集のピーアール活動、また通学費補助などの取り組みを勘案されているようにも伺います。特に地元の高校を存続させるという、地元自治体の強い熱意が求められるところでもあります。特に江差高校の場合は、町の中心部から通学する定期バス代が、おおよそ1万4千円ほどかかるわけであります。数を大体調べてみましたら、全生徒の8割がバスを使わないで、自家用車で通学している

という実態があるわけでありまして。以前にも日明地区から朝の高校への送迎の自家用車により、大変交通安全上も心配、不安があるという、そういう指摘が出されたわけでありまして。交通安全上からも是非ともですね、この通学バスの、やっぱり考えるべきではないか。というふうに考えますが、教育長の所見を求めたいと思います。

(議長)

「教育長」。

「教育長」

まず、1点目。1点目の江差高校の間口減と今後の中学卒業生数の見込と対応についてでございます。平成31年度の江差高校の入学者は、募集枠が3間口、定員120名で募集をいたしました。これに対し、入学者数が77名となり、3間口の維持のために必要な生徒数81名を下回ったことから、平成31年度の第1学年は、2間口で、1間口が減となったところであります。北海道公立高等学校配置計画では、間口減が行われた場合、次年度以降も減となった間口数で生徒募集を行うことを原則としております。令和2年度は、平成31年3月末よりも中学卒業生数の増が見込まれ、また、例年通りの進学率であれば、江差高校への進学者は81名を超える予定であることから、江差高校へ進学を希望する生徒が入学できない状況になり、遠距離通学や自宅外通学など余儀なくされ、生徒負担はもちろん、保護者や経済的負担が増大することにもなります。このため、令和2年度に生徒募集間口が2間口として、計画に示されることがないように、江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町の4町長連名で、江差高等学校における生徒募集枠、1間口増についての要望書を4月12日に江差町長が4町を代表して、北海道教育委員会佐藤教育長に直接提出し、要望したところでございます。令和2年度の計画は、地元の要望、意見、中卒者数、進学希望者数を勘案し、9月に正式決定する予定であります。今後10年間の中卒者数の見込については、資料でも示したとおり、年度によりバラつきがあるものの、増減しながら50人台から40人程度に減少するものと推計しております。関係町においても同様の傾向でありますので、この間において1間口減は避けられないものと推測されますが、生徒にとっても、地域にとっても、魅力ある高校作りのため、地域と高校が連携して今後も取り組んでいかなければならないものと考えております。

次に通学バス代の保護者負担軽減と自家用車送迎に対する交通安全対策についてでございますが、町内の江差高校生については、定期券通学者は全体で毎年10名程度で、送迎車の都合により片道あるいは曜日によりバス利用等、いろいろなパターンがあると函館バスからは聞いております。保護者負担の軽減対策としてのバス代の補助につきましては、現時点では考えておりませんが、経済的理由により就学困難な学生については、町の少額資金貸付制度等を活用して頂くなど、支援をしております。また、送迎車による渋滞のため、交通安全対策としてのバス通学の利用促進をすべきとのことですが、1問目で町長か

らの答弁にもありましたが、総合的な交通体系を検討する中で検討すべきもので、第6次江差町総合計画の策定段階での検討議論されるものと考えておりますので、ご理解願います。

(議長)

「飯田議員」

「飯田議員」

ただ今、教育長から答弁頂きました。相当危機感は、高校の間口については持っている。特にやっぱり今年は、生徒数も先ほど申しましたけれども、生徒数が少ない中であって、他校に、学区外に出た生徒が多かったという特殊事情により2間口になって、来年以降はまた普通通りに戻るわけなんです。資料要求で頂きました、過去10年間の入学者と他町との割合。また、管外転出の人数等、これを見ましてもですね、やっぱりなんとしてもやっぱり3間口は確保していかなくちゃならないというのは、やっぱり、江差町ばかりではなくて、4町通学者、区域の町長だけじゃないですよ。議会も含めてね、強力にもっとね、陳情、要請活動しなければ、これはやっぱり大変ですよ。中学校卒業しても地元高校に入れないという事案が出てくるわけですよ。これはやっぱりどうしても防がなきゃならない。強力にやっぱり、要請行動はしていかなきゃ私はならないというふうに思っています。

それと今通学バスの補助については今考えていない。第6次総合計画の中で検討させてもらいたい。時間がかかりますよ。やっぱりこういう部分はですね、早急にやっぱり手を付けていかなければ、道教委もですね、地元のやっぱりそういうような、間口を存続させる、高校を存続させるっていう、地元の熱意をみてるわけですから、特にやっぱり地元、江差町、江差中学から、北中から通う入学希望者は特に今年が少なかったわけですから、それを勘案しても、やっぱり、そういうような交通費の補助や、合わせまして陳情活動は、強力に推し進めるべきだと思いますけれども、もう一度合わせて答弁をお願いしたいと思います。

(議長)

はい。「教育長」

「教育長」

まず、まず要請活動でございますけども、先程の答弁でも申し上げたとおりですね、既に江差町長から道教委の方には、4町、4町長、地元の4町長連名で、道の教育長の方に要請、要望書を提出しております、これに対しまして、道の教育長の方からは、地元の要望については十分尊重しますというふうな意見を頂いておりますし、それから、高校配

置計画の地元、検討協議会の中でもですね、出席委員の方から3間口維持について、各町から、あるいはPTA、あるいは経済団体からもですね、強力でですね、3間口維持について要請があったところでもあります。

それから、交通渋滞の部分でありますけども、これについてはですね、交通渋滞につきましても、確かに一部、保護者等のマナーの問題もあり、危惧している部分もあるというふうに聞いております。生徒の帰宅時間、あるいは放課後、部活終了時にですね、送迎の車が集中すること。それから、渋滞し一部、マナーの悪い保護者がいて、二重駐車やあるいは駐車禁止区域であるバスの旋回場などに駐車したりして、おられる方がいるときいており、高校の方からもですね、交通安全、マナーについてはですね、PTAの総会、あるいは保護者会等を通じて注意を促しておりますが、なかなか解消できない実態もあります。高校ではですね、引き続き保護者に対し、駐車マナーについて、お願いしていくということでございます。また、バスの運行時間がですね、高校の教育活動の実態により、合うような見直しや利便性を高める努力も必要であり、このあたりもですね、交通総合体系の見直しの中で検討していくべきものと考えております。以上です。

(議長)

いいですか。「飯田議員」

「飯田議員」

私の質問の主旨と答弁が違う。私はそういう父兄の送迎のマナーが悪いと一言も言いませんよ。それは、答弁撤回して下さい。申し訳ないですよ保護者の方々に。私はそういうことを指摘してませんから。やっぱり定期代が高い。ね。それ故にやっぱり管外に行くという事例もあるもんですから、やっぱりこれは補助は喫緊の課題として取り組んでもらいたいということをお話したわけですから。だからこれは答弁いいですから、私は次の質問に入ります。

第3問目に入ります。

答える。もし答えがあるなら。

(議長)

はい。「教育長」

「教育長」

保護者の、ただ今の発言についてはですね、申し訳ございません。撤回させていただきます。

バス代につきましてもですね、先程の質問のとおりですね、現在のところ考えておりませんが、ただ、今後ですね、江差高校の魅力向上のためにですね、どんな、地元としてもですね、支援ができるのか。このあたりはですね、江差高校ともごつくばらんに協議して、

地元のですね、4町の教育長とも話し合いをしてですね、江差高校の内容充実について検討して参りたいと思っておりますので、ご理解をお願いします。

(議長)

はい。飯田議員3問目。「飯田議員」

「飯田議員」

ただ今の答弁で3問目確保と、そのバスの定期代補助については期待をして、3問目に入ります。

3問目でありますけれども、交通弱者対策としての交通、公共交通機関のあり方についてであります。この質問についてはですね、第1問、第2問目と重複する部分もありますけれども、この問題については、私はやっぱり教育委員会、町長部局別々じゃなくて、江差町として総合的にやっぱり今後の地方における交通体系のあり方を検討して頂くために、高齢者の問題もそうですし、高校生のバス通学の問題、これを合わせて総合的にやっぱり検討すべきという観点からの質問でございます。特に町長の選挙公約である、お買い物バス導入につきましては、商店街の活性化、振興対策として、多くの商店関係者が期待をしているわけでありまして、また、車を持たない高齢者の方々、このお買い物バスの導入含めて、大変期待を持っているわけでございます。本当に早急な実施が待たれるわけでありまして、ただ、人口減少そして高齢化社会を迎えて、そういう社会にありまして、地方の公共交通のあり方を、まさに早急に検討すべき時期に来ている。そういう時期でありますから、他のいろんな自治体で、実証実験やデマンドバスの導入に踏み切っているわけでありまして、特に高齢者ばかりでなくて、先程も申し上げました、高校生の通学バスの問題、現在、北小中のスクールバスもあります。それらを含めましてですね、やはり地方における総合的な交通体系を、あり方を、私は第6次総合計画だけでなく、早急にやっぱり検討を、先行して検討をしていく時期だというふうに考えております。このことにつきまして、町長の所信を求めたいと思います。

(議長)

はい。「町長」

「町長」

まず私の選挙公約であるお買い物バスの運行についてであります。現在制度の設計中であり、その運行については商店街が実施するイベント時の集客対策などを想定している現状にあります。議員ご提言の運転免許証を自主返納された方に対する支援策等につきましては、家族構成等、個々のケースによって違いがあることから、真に必要としている支援策について、現状の町の交通施策と照らし合わせながら検討しなければならないものと

考えております。一方町内においては民間事業者による路線バスが近隣町に比して多くの便数が運行しており、通院や通学、買い物等、まさしく町民の足として現に利用される中、残念ながら全ての路線において赤字路線となっており、路線バスの利用促進対策も喫緊の課題となっております。このような中、飯田議員からは、交通弱者対策としての総合的な交通体系の検討が必要ではないかとのことご質問であり、1問目の私からの答弁、また、2問目の教育長の答弁にもありますとおり、第6次江差町総合計画の策定段階において、全体的な議論を深めて参りたいと考えおりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

はい。「飯田議員」

「飯田議員」

再質問いたします。私の質問はですね、もちろん地元にも、函館バスさんいろんな路線を巡らせてる。ただ残念なのはやっぱり、乗ってる方少ないんですよ。これからのやっぱり地方交通のあり方についてはですね、いろいろ議論ありますけれども、他町がやっぱり踏み切ってるのは、やっぱり例えばデマンドバスで戸口から戸口までだったり、それを自治体がやるんじゃなくて、やっぱり函バスさんと連携をしながら、実際に、この2、3日中、町内本当に小型の低床のバスが走ってたんですね。それで函バスさんに問い合わせたら、スクールバスのちょっと代替え、じゃなくて、木古内路線の代替えバスでちょっと導入している。あれがやっぱりこれからのデマンドバスのバスであり、こういう部分を会社と町が連携をして動かすということなんですよ。やっぱり函バスさんも、やっぱり守りながら、そして住民の足を確保するという、これがやっぱり私はこれからの政策だというふうに思ってるんですよ。ですから、やっぱり、そういう部分で、逆にそういうバスを導入することによって、函バスさんもある程度乗車率も高まるだろうし、高齢者やそういうお買い物難民の方々も、やっぱり喜ばれるわけですよ。そういう部分での私は導入を目指すべきだというふうに提案、質問しているわけでありまして。合わせて答弁をお願いしたいと思います。

(議長)

はい。「まちづくり推進課長」

「まちづくり推進課長」

飯田議員のご質問でございますが、人口が減っていくということになりますと、移動サービスの縮小だったり、あるいは移動そのものが縮小していくということが懸念されています。それと、高齢者の増加で、1問目のご質問にもありましたが、運転免許証の自主返納される方、こういう方々が増えてくるんだろうなと思っております。実は第6次の町民、

総合計画の町民アンケートの中でも、実は公共交通のあり方については、重要改善分野というような位置付けをされております。で、先程来町長、教育長のご答弁にもありますが、民間事業者の方々と、あるいはドアつうドアで、個々で対応するもの、そういうもののニーズをしっかりと捉えながらですね、子育て支援といった観点、あるいは地域の交通を、足を守るといった観点から、総合的にいろいろと議論を深めて参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

いいですね。はい。

以上で飯田議員の一般質問を終わります。

11時15分まで休憩いたします。